

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立思斉中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

中学部9年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

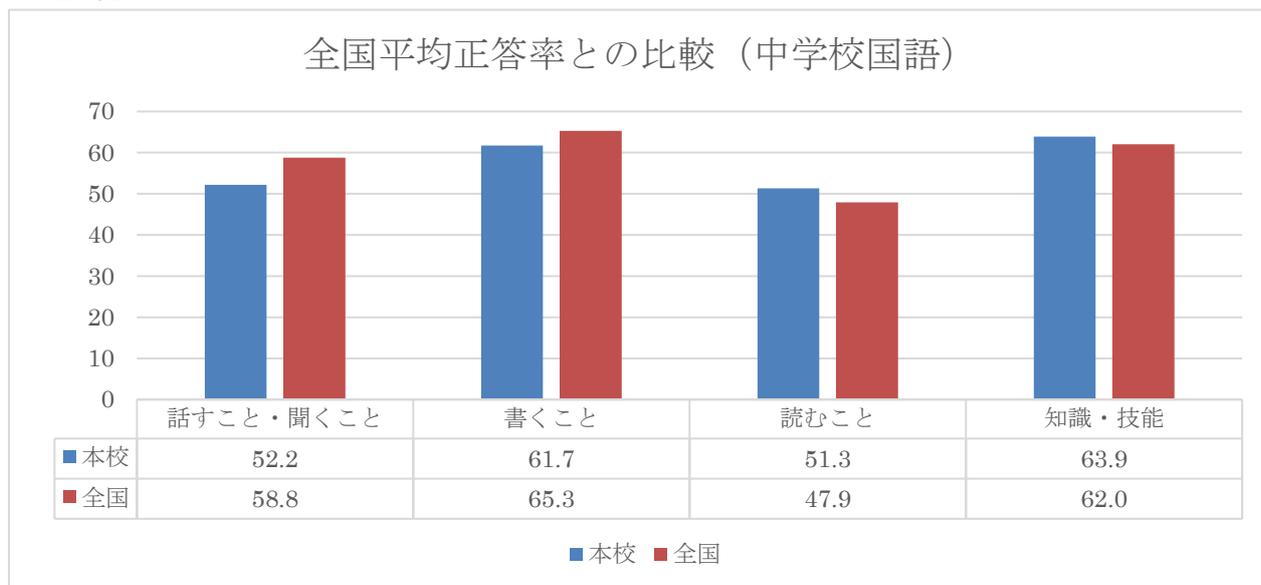
生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心, 授業内容の理解度, 基本的な生活習慣, 家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況 など

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「読むこと」・「知識・技能」は全国平均正答率を上回っています。また、無回答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」の正答率が全国平均正答率を 1.9 ポイント上回りました。中でも、「短歌に用いられている表現の技法に関する事項」では、全国平均を大きく上回りました。普段から、詩や短歌・俳句の学習などに取り組んでいる成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率は、全国平均正答率を下回っており、苦手としている生徒がいます。生徒の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」・「書くこと」・「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

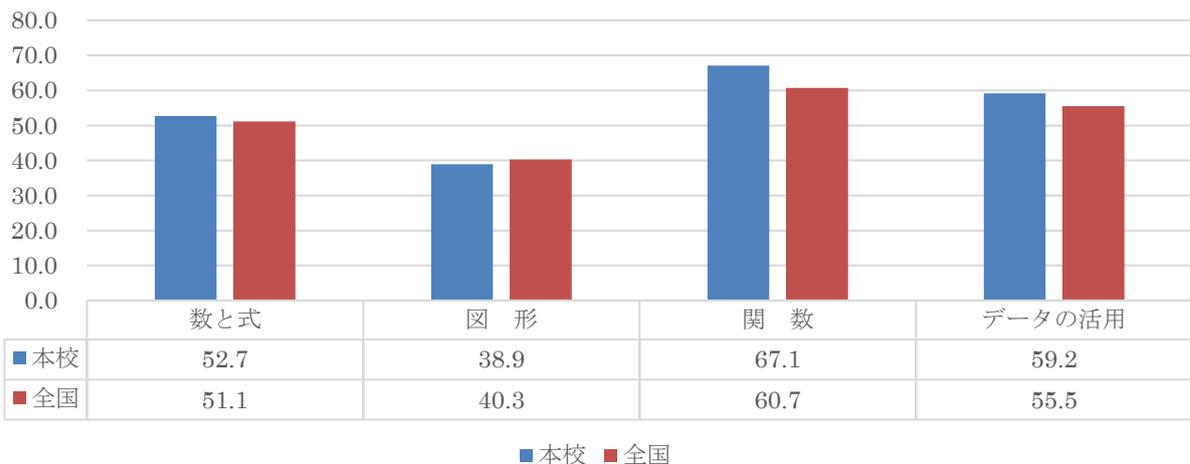
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業での「学び合い」のなかで学ぶ楽しさを感じながら、深い学びが出来るようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその根拠を明確にしながら書く機会を増やします。
- 一人一台端末を利用し、e ライブラリを授業や課題などで活用することで、個別最適な学びを目指します。
- プレゼンテーションやインタビューなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 家庭学習を大切にしましょう。本校ではタブレットの持ち帰りを行っています。e ライブラリでは個に応じた学習が可能です。繰り返し学習に取り組むことは、国語科ではなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書週間をつける上でおすすめです。

全国平均正答率との比較（中学校数学）



(1) 結果

「図形」の領域は全国平均をやや下回っていますが、「図形」以外の領域で全国平均正答率を上回っています。特に、等式を目的に応じて変形する計算や、一次関数のグラフと式の関係の理解、複数のデータを読み取る問題は、全国より15%以上上回っていました。無解答率については、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかを見る問題で、全国平均より18%、県平均より20.2%上回っていて、複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかを見る問題が、全国平均より18.9%、県平均より16.5%上回っていました。技能習得において、どうすればできるか、解けるかを考えさたり、学び合いの時間を設定したりすることや、小テストを繰り返し行うことが、今回の結果に繋がったと考えられます。

また、全国平均を5%以上下回っていた問題は2問で、1問は「数と式」の、連続する2つの偶数を文字を用いた式で表す問題で、もう1問は、「図形」の角に着目し、新たな性質を見いだす問題でした。文字で表すことに苦手意識を持っていた生徒や、問題文が長く問題把握ができなかった生徒が多くいたと思われます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業では、知識・技能を教え込むのではなく、考えさせ、話し合わせ、自分たちでその技能を発見・習得できるように工夫をして行います。また、学習した知識や技能を使う場面を多くつくり、知識・技能が自然と身につくような授業を心がけます。
- 今後も、授業の中で「学び合い」の時間を多く取り入れ、文字を使う意味を考えたり、問題文の内容を図でイメージしたりする時間を大切にしていきます。そして自分の考えを持ち、数学的な表現ができるようにしていきます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさんの励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 問題内容の把握する力を身につけるために、活字を読む習慣が必要だと考えます。
- 数学を好きになるためには、問題解決に向けて粘り強く考え、自分で正解を導き出し、達成感を感じる事が重要です。つまり、数学の学習だけでなく、他の教科の学習や生活における様々な問題で、すぐに答えを見たり教えてもらったりするのではなく、まず、時間をかけて自分の考えをもつことが大切です。ゲームやパズルなどの遊びの中でも同じことがいえます。「まずは自分で考える」ことを大切に生活するようご家庭でも声かけをお願いします。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	82.0%	79.1%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	29.5%	34.9%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	36.1%	55.3%
自分にはよいところがあると思いますか。	34.4%	40.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	31.1%	36.1%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	63.9%	68.6%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	83.6%	77.5%

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」	8.2%	9.2%
「2時間以上、3時間より少ない」	14.8%	22.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	37.7%	32.6%
「30分以上、1時間より少ない」	24.6%	18.4%
「30分より少ない」	13.1%	10.4%
「全くしない」	1.6%	6.6%

家庭学習については、学習時間の全体量はあまり多くはないようです。しかし、家庭学習を全くしていない生徒は、全国平均よりも低い結果が出ています。個人差が見られるので、自分の目標に向かって、見通しをもって家庭学習を行うように指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校では、三年間をかけてキャリア教育の充実を図ります。職業や高校についての調べ学習、職業人に学ぶ、先輩に学ぶといった講話、職場体験や体験入学などを計画的に行い、自分の将来の夢や目標について考える機会を増やしていきます。
- 一人一台端末の持ち帰りが始まり、ICTを活用した家庭学習にも取り組んでいきます。習熟度に応じた自主学习に取り組むことで、家庭学習の充実を図ります。

【ご家庭では】

- 将来の夢や目標について考える機会を増やすことが大切です。ご家庭でも、将来の夢や目標を話題にする機会を設けることで、将来に対する意識が高まります。
- 一人一台端末を取り扱うルールを守り、ネットリテラシーを高めることが大切です。正しくICTを活用するために、ご家庭でもルールの確認、徹底をお願いします。また、お子さんの家庭学習を見守り、取り組みを認めることで、家庭学習がより充実することが期待されます。